

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません。

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-978 改0
提出年月日	平成30年7月31日

V-2-5-7-2-3 管の耐震性についての計算書

目 次

1. 概要	1
2. 概略系統図及び鳥瞰図	2
2.1 概略系統図	2
2.2 鳥瞰図	4
3. 計算条件	10
3.1 荷重の組合せ及び許容応力	10
3.2 設計条件	11
3.3 材料及び許容応力	18
3.4 設計用地震力	19
4. 解析結果及び評価	20
4.1 固有周期及び設計震度	20
4.2 評価結果	26
4.2.1 管の応力評価結果	26
4.2.2 支持構造物評価結果	27
4.2.3 弁の動的機能維持評価結果	28
4.2.4 代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果	29

1. 概要

本計算書は、「V-2-1-9 機能維持の基本方針」，「V-2-1-11 機器・配管の耐震支持設計方針」及び「V-2-1-13-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」に基づき，管，支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度又は動的機能を有していることを説明するものである。

評価結果記載方法は以下に示す通りである。

(1) 管

工事計画記載範囲の管のうち，各応力区分における最大応力評価点の評価結果を解析モデル単位に記載する。また，全9モデルのうち，各応力区分における最大応力評価点の許容値／発生値（以下「裕度」という。）が最小となる解析モデルを代表として鳥瞰図，計算条件及び評価結果を記載する。代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を4.2.4に記載する。

(2) 支持構造物

工事計画記載範囲の支持点のうち，種類及び型式単位に支持点荷重が最大となる支持点の評価結果を代表として記載する。

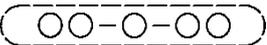
(3) 弁

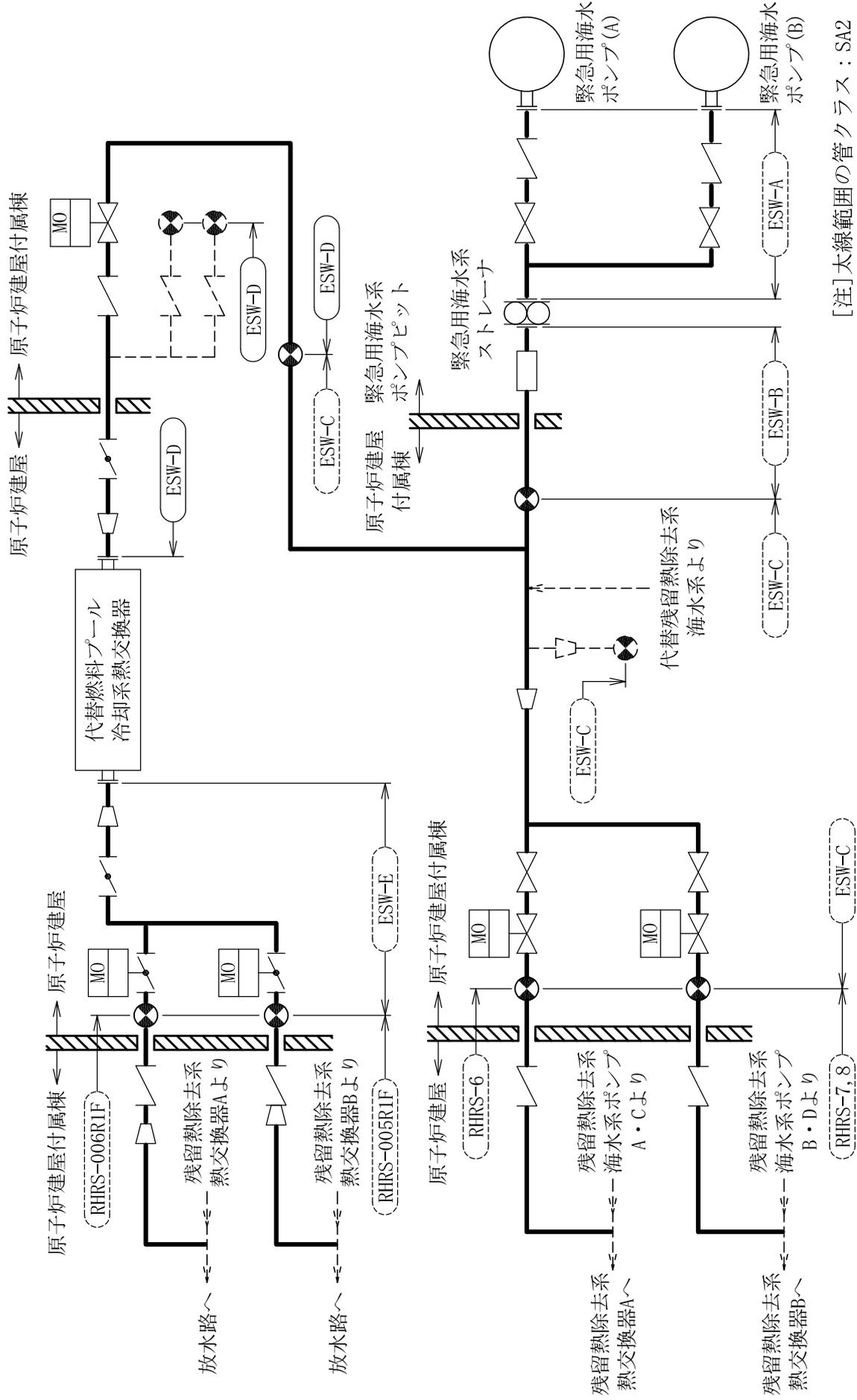
評価結果を記載する対象弁は，工認主要弁かつ動的機能維持要求弁とし，機能確認済加速度の応答加速度に対する裕度が最小となる動的機能維持要求弁を代表として，弁型式別に評価結果を記載する。

2. 概略系統図及び鳥瞰図

2.1 概略系統図

概略系統図記号凡例

記号	内容
 (太線)	工事計画記載範囲の管のうち、本計算書記載範囲の管 (重大事故等対処設備)
 (太破線)	工事計画記載範囲の管のうち、本計算書記載範囲の管 (設計基準対象施設)
 (細線)	工事計画記載範囲の管のうち、本系統の管であって他 計算書記載範囲の管
 (破線)	工事計画記載範囲外の管又は工事計画記載範囲の管の うち、他系統の管であって系統の概略を示すために表 記する管
	鳥瞰図番号 (鳥瞰図, 計算条件及び評価結果を記載す る範囲)
	鳥瞰図番号 (評価結果のみ記載する範囲)
	アンカ
[管クラス] DB1 DB2 DB3 DB4 SA2 SA3 DB1/SA2 DB2/SA2 DB3/SA2 DB4/SA2	クラス 1 管 クラス 2 管 クラス 3 管 クラス 4 管 重大事故等クラス 2 管 重大事故等クラス 3 管 重大事故等クラス 2 管であってクラス 1 管 重大事故等クラス 2 管であってクラス 2 管 重大事故等クラス 2 管であってクラス 3 管 重大事故等クラス 2 管であってクラス 4 管

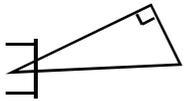
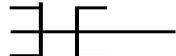
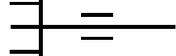
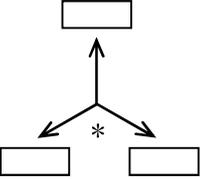


[注] 大線範囲の管クラス：SA2

緊急用海水系概略系統図

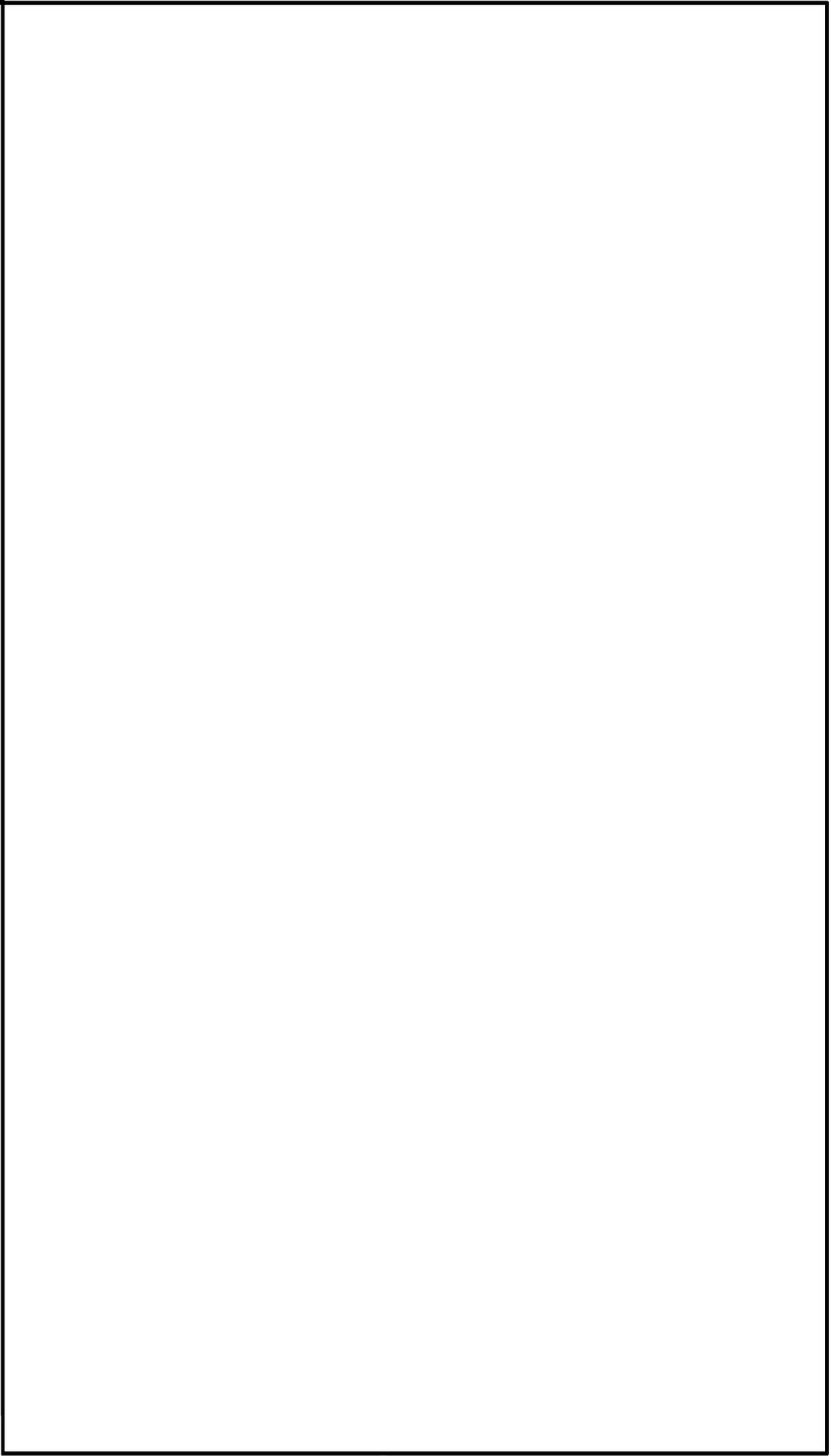
2.2 鳥瞰図

鳥瞰図記号凡例

記号	内容
 (太線)	工事計画記載範囲の管のうち、本計算書記載範囲の管 (重大事故等対処設備の場合は鳥瞰図番号の末尾を「(SA)」, 設計基準対象施設の場合は鳥瞰図番号の末尾を「(DB)」とする。)
 (細線)	工事計画記載範囲の管のうち、本システムの管であって他計算書記載範囲の管
 (破線)	工事計画記載範囲外の管又は工事計画記載範囲の管のうち、他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管
	質点
	アンカ
	レストレイント (本図は斜め拘束の場合の全体座標系における拘束方向成分を示す。スナッパについても同様とする。)
	スナッパ
	ハンガ
	リジットハンガ
	拘束点の地震による相対変位量(mm) (* は評価点番号, 矢印は拘束方向を示す。また, 内に 変位量を記載する。)

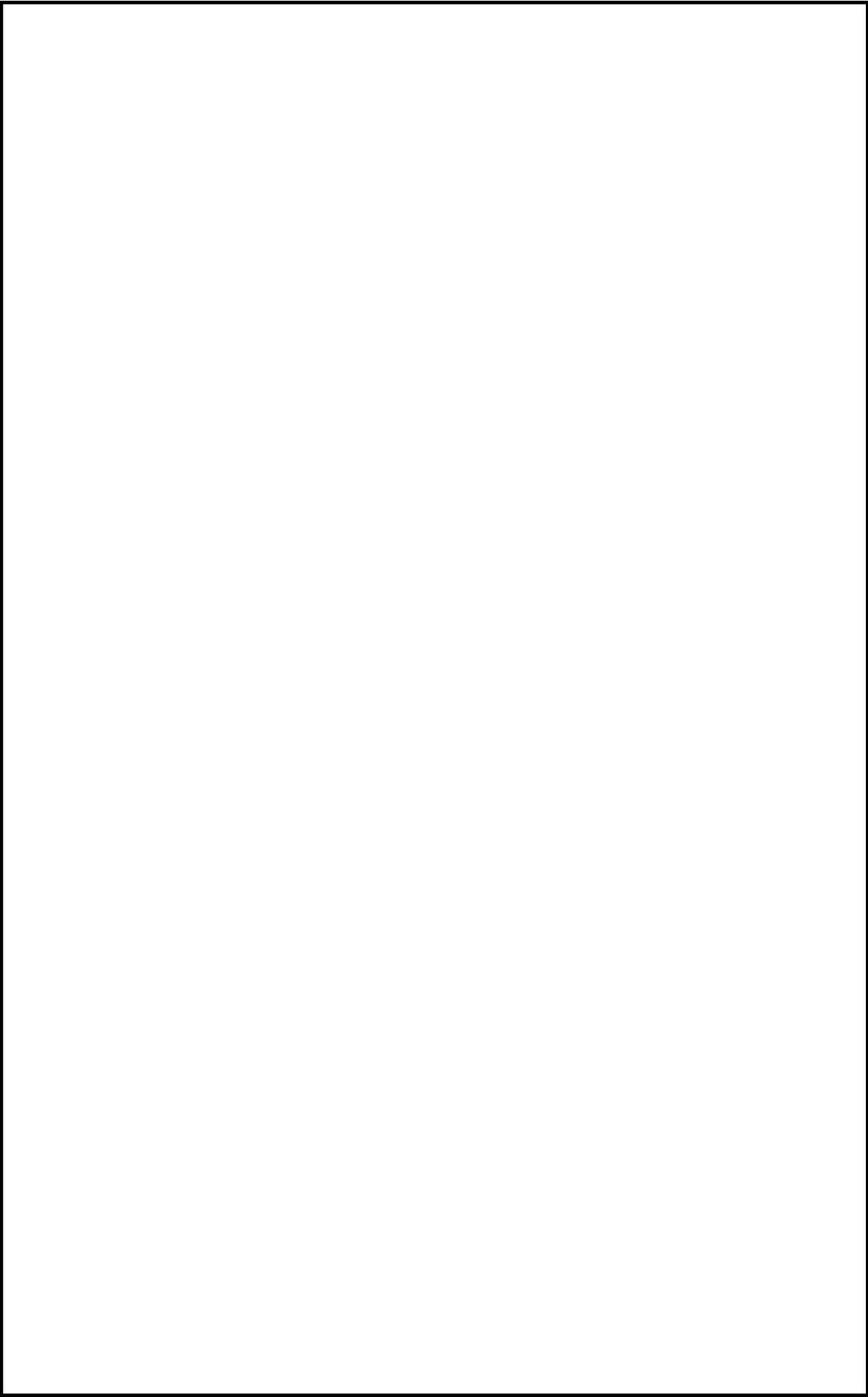
注： 鳥瞰図中の寸法の単位はmmである。

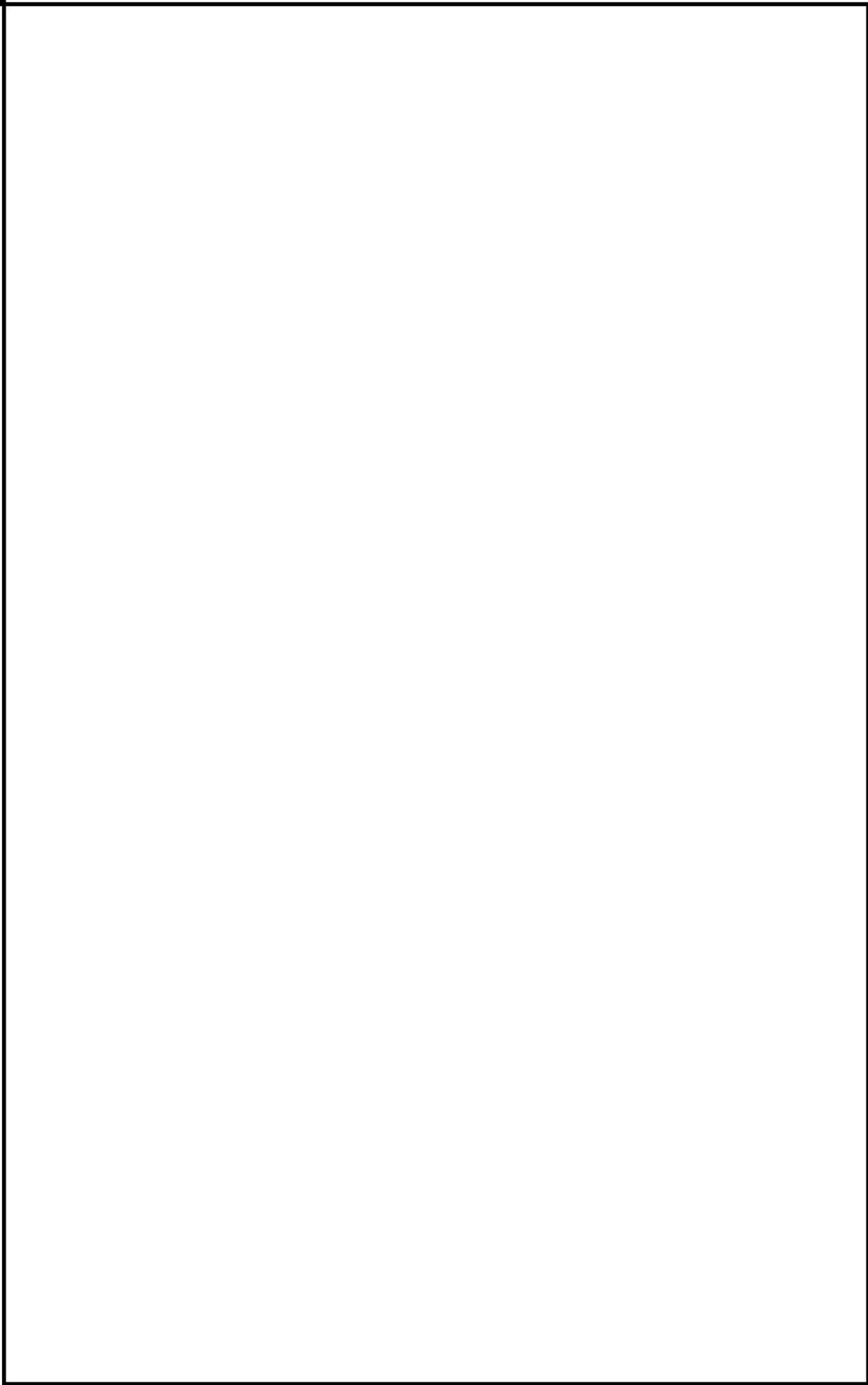
NT2 補③ V-2-5-7-2-3 R0



鳥瞰図

ESW-D(SA) (1/5)





3. 計算条件

3.1 荷重の組合せ及び許容応力

本計算書において考慮する荷重の組合せ及び許容応力を下表に示す。

施設名称	設備名称	系統名称	施設分類*1	設備分類*2	機器等の区分	耐震設計上の重要度分類	荷重の組合せ*3,4	許容応力状態*5
原子炉冷却系統施設	原子炉補機冷却設備	緊急用海水系	S A	常設耐震／防止 常設／緩和	重大事故等クラス2管	—	$V_L + S_s$	$V_A S$

注記*1: D Bは設計基準対象施設, S Aは重大事故等対処設備を示す。

*2: 「常設耐震／防止」は常設耐震重要重大事故防止設備, 「常設／防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防

止設備, 「常設／緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

*3: 運転状態の添字Lは荷重が作用している状態を示す。

*4: 許容応力状態ごとに最も厳しい条件又は包絡条件を用いて評価を実施する。

*5: 許容応力状態 $V_A S$ は許容応力状態 $IV_A S$ の許容限界を使用し, 許容応力状態 $IV_A S$ として評価を実施する。

3.2 設計条件

鳥瞰図番号ごとに設計条件に対応した管番号で区分し、管番号と対応する評価点番号を示す。

鳥 瞰 図 ESW-D

管番号	対応する評価点	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	耐震クラス	縦弾性係数 (MPa)
1	1A~40F	2.45	40	165.2	7.1	STPT410	—	201667
2	44F~46F, 47F~262F 265F~272	0.98	40	165.2	7.1	STPT410	—	201667
3	273~278N	0.98	40	114.3	6.0	STPT410	—	201667

配管の付加質量

鳥 瞰 図 ESW-D

質量	対応する評価点
	1A~40F, 44F~46F, 47F~262F, 265F~272
	273~278N

フランジ部の質量

鳥 瞰 図 ESW-D

質量	対応する評価点
	3F, 7F, 10F, 13F, 19F, 22F, 25F, 28F, 31F, 35F, 38F
	40F, 44F
	46F, 47F, 262F, 265F
	50F, 52F, 56F, 60F, 63F, 65F, 68F, 70F, 73F, 76F, 78F, 81F 86F, 89F, 93F, 94F, 97F, 101F, 104F, 111F, 115F, 118F, 120F, 123F 125F, 128F, 131F, 137F, 140F, 142F, 145F, 150F, 156F, 161F, 164F, 170F 173F, 176F, 180F, 183F, 186F, 190F, 193F, 194F, 197F, 199F, 202F, 203F 206F, 214F, 220F, 225F, 228F, 230F, 233F, 234F, 237F, 243F, 246F, 249F 254F, 257F, 259F, 267F, 270F, 271F
	274F, 277F
	278N

弁部の寸法

鳥 瞰 図 ESW-D

評価点	外径(mm)	厚さ(mm)	長さ(mm)	評価点	外径(mm)	厚さ(mm)	長さ(mm)
40F~41	[Blank Box]			41~42	[Blank Box]		
42~43				41~44F			
46F~47F				262F~263			
263~264				263~265F			

弁部の質量

鳥 瞰 図 ESW-D

質量	対応する評価点	質量	対応する評価点
	40F, 44F		41
	42		43
	46F~47F		262F, 265F
	263		264

支持点及び貫通部ばね定数

鳥 瞰 図 ESW-D

支持点番号	各軸方向ばね定数(N/mm)			各軸回り回転ばね定数(N・mm/rad)		
	X	Y	Z	X	Y	Z
1A						
15						
27						
39						
45						
51						
57						
69						
77						
90						
98						
106						
119						
133						
141						
149						
154						
159						
165						
169						
178						
182						
189						
198						
210						
218						
224						
233						
238						
245						
258						

NT2 補③ V-2-5-7-2-3 R0

支持点及び貫通部ばね定数

鳥 瞰 図 ESW-D

支持点番号	各軸方向ばね定数(N/mm)			各軸回り回転ばね定数(N・mm/rad)		
	X	Y	Z	X	Y	Z
266						
278N						

3.3 材料及び許容応力

使用する材料の最高使用温度での許容応力を下表に示す。

材 料	最高使用温度 (°C)	許容応力 (MPa)			
		S m	S y	S u	S h
STPT410	40	—	245	410	—

3.4 設計用地震力

本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設備評価用床応答曲線を下表に示す。

なお、設備評価用床応答曲線は、「V-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に基づき策定したものをを用いる。また、減衰定数は「V-2-1-6 地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。

鳥瞰図	建物・構築物	標高	減衰定数(%)
ESW-D	原子炉建屋	EL. 20.300 m	2.0

4. 解析結果及び評価

4.1 固有周期及び設計震度

鳥 瞰 図 ESW-D

耐震クラス		—				
適用する地震動等		S s				
モード	固有周期 (s)	応答水平震度				
		X方向	Y方向			
1 次	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]			
2 次						
3 次						
4 次						
5 次						
6 次						
7 次						
8 次						
33 次						
34 次						
動的震度						

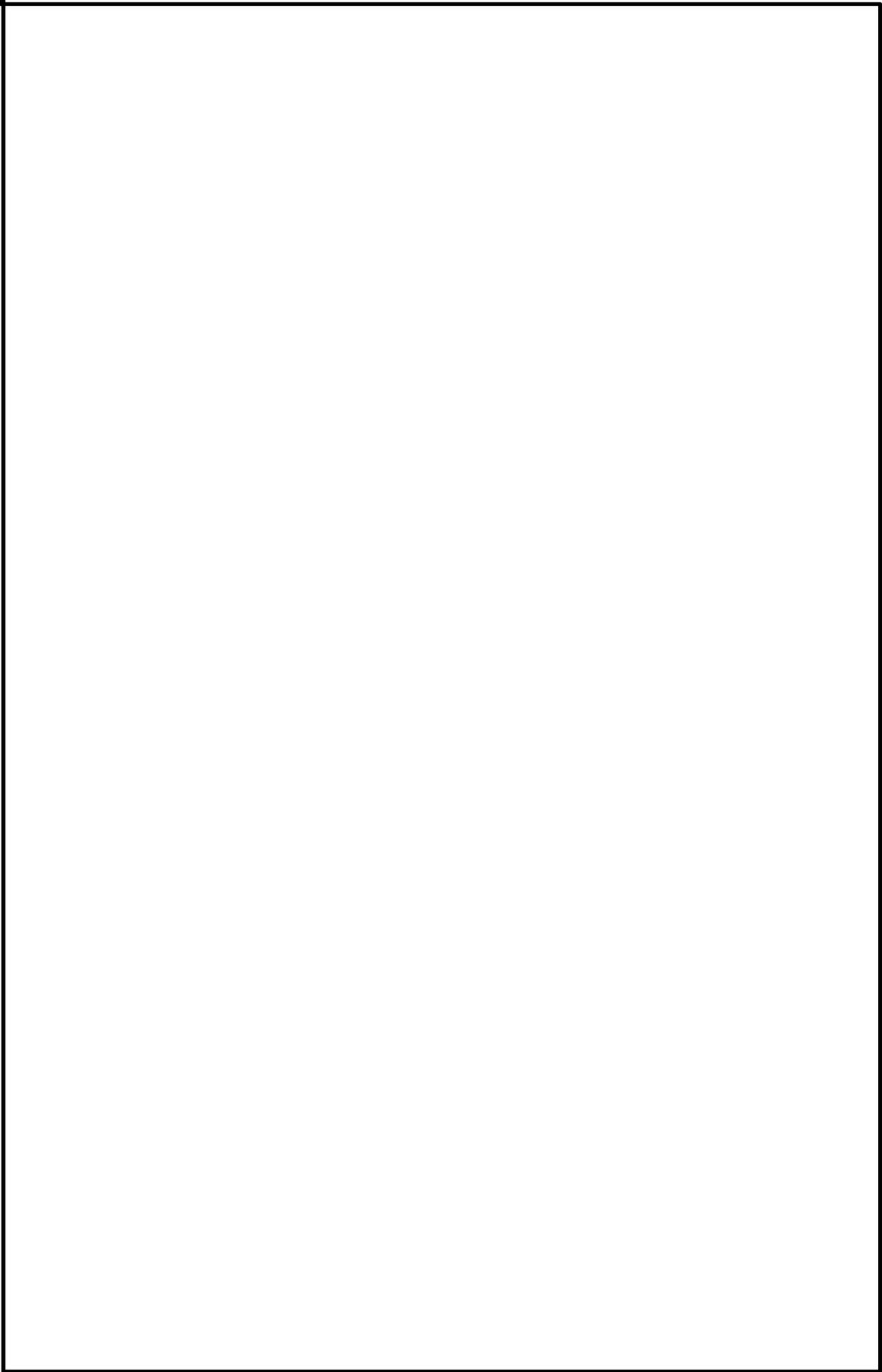
各モードに対応する刺激係数

鳥 瞰 図 ESW-D

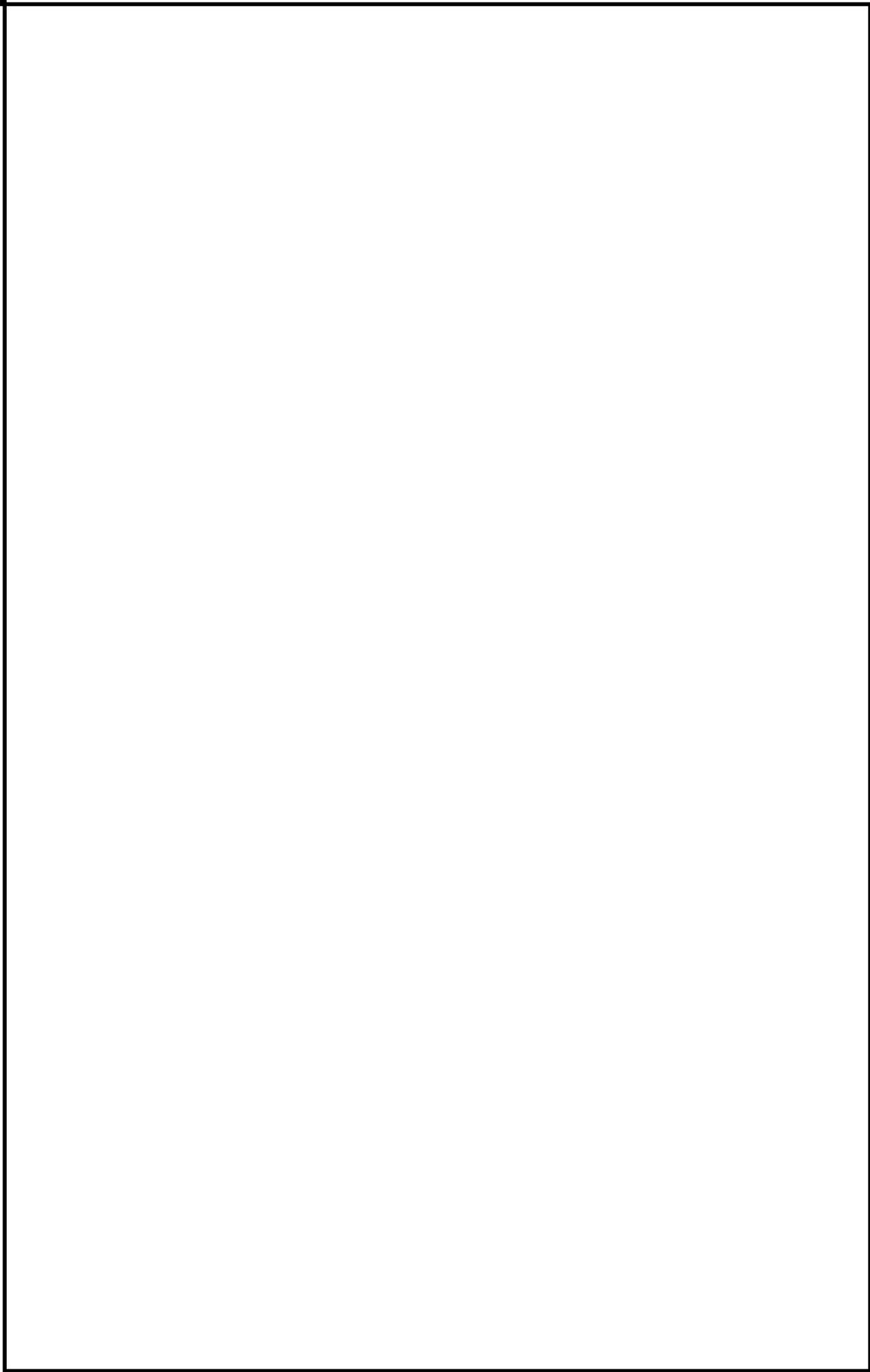
モード	固有周期 (s)	刺激係数		
		X方向	Y方向	Z方向
1次				
2次				
3次				
4次				
5次				
6次				
7次				
8次				
33次				

代表的振動モード図

振動モード図は、3次モードまでを代表とし、各質点の変位の相対量・方向を破線で図示し、次ページ以降に示す。



NT2 補③ V-2-5-7-2-3 R0



鳥瞰図

ESW-D

4.2 評価結果

4.2.1 管の応力評価結果

下表に示すとおり最大応力及び疲労累積係数はそれぞれの許容値以下である。

重大事故等クラス2管

鳥瞰図	許容応力状態 (供用状態)	最大応力評価点	最大応力区分	一次応力評価 (MPa)		一次＋二次応力評価 (MPa)		疲労評価
				計算応力 Sprm (Ss)	許容応力 0.9Su	計算応力 Sn (Ss)	許容応力 2Sy	
ESW-D	V _A S	138	Sprn (Ss)	249	369	—	—	—
ESW-D	V _A S	138	Sn (Ss)	—	—	482	490	—

4.2.2 支持構造物評価結果

下表に示すとおり計算応力及び計算荷重はそれぞれの許容値以下である。

支持構造物評価結果 (荷重評価)

支持構造物 番号	種類	型式	材質	温度 (°C)	評価結果	
					計算 荷重 (kN)	許容 荷重 (kN)
SNO-ESW-Y011	オイルスナツバ	SN-16	「V-2-1-11機器・ 配管の耐震支持設 計方針」参照		38.9	240.0
R0-ESW-R004	ロッドレストレイント	RTS-6			38.8	108.0
SH-RHRS-R012	スプリングハンガ	VS-1			25.0	30.5

支持構造物評価結果 (応力評価)

支持構造物 番号	種類	型式	材質	温度 (°C)	支持点荷重						評価結果			
					反力 (kN)			モーメント (kN・m)			応力 分類	計算 応力 (MPa)	許容 応力 (MPa)	
					F _x	F _y	F _z	M _x	M _y	M _z				
RE-ESW-R008	レストレイント	パイプバンド	STK400 SM400B	100	79.0	59.9	0.0	—	—	—	—	圧縮	61	129
AN-ESW-R003	アンカ	ラグ	SGV410	100	46.3	82.4	61.2	20.7	116.0	156.0	組合せ	79	138	

4.2.3 弁の動的機能維持評価結果

下表に示すとおり応答加速度が機能確認済加速度以下又は計算応力が許容応力以下である。

弁番号	形式	要求機能	応答加速度* ($\times 9.8 \text{ m/s}^2$)		機能確認済加速度 ($\times 9.8 \text{ m/s}^2$)		構造強度評価結果 (MPa)	
			水平	鉛直	水平	鉛直	計算応力	許容応力
—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 応答加速度は、打ち切り振動数を50Hzとして計算した結果を示す。

4.2.4 代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果

代表モデルは各モデルの最大応力点の応力と裕度を算出し、応力分類毎に裕度最小のモデルを選定して鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載している。下表に、代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を示す。

代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果（クラス2範囲）

No	配管モデル	許容応力状態 V _A S										
		一次応力（膜+曲げ）					一次+二次応力及び疲労評価					
		評価点	計算応力 [MPa]	許容応力 [MPa]	裕度	代表	評価点	計算応力 [MPa]	許容応力 [MPa]	裕度	疲労累積 係数	代表
1	ESW-A	30N	45	369	8.20	—	30N	44	490	11.13	—	—
2	ESW-B	19A	201	369	1.83	—	19A	294	490	1.66	—	—
3	ESW-C	3	150	369	2.46	—	3	240	490	2.04	—	—
4	ESW-D	138	249	369	1.48	○	138	482	490	1.01	—	○
5	ESW-E	126	164	366	2.23	—	126	304	462	1.51	—	—
6	RHRS-6	70	58	369	6.36	—	73	53	490	9.24	—	—
7	RHRS-7, 8	161	136	369	2.71	—	161	221	490	2.21	—	—
8	RHRS-005R1F	F02	241	366	1.51	—	F02	410	434	1.05	—	—
9	RHRS-006R1F	I02	189	366	1.93	—	I02	330	434	1.31	—	—